

中信地区公運協だより

編集発行
中信地区公民館
運営協議会

松本市島立1020
長野県松本合同庁舎内
中信教育事務所

あいさつ

中信地区公民館運営協議会 副会長 小笠原 鉄夫
(松本市入山辺公民館長)



穏やかなお正月を迎えられたと思つた元日、能登半島地震が起きました。被災され今なお避難生活に苦しんでいる皆さま方にお見舞い申し上げます。1日も早く日常生活が取り戻され、復旧・復興ができますよう願つてやみません。

この3年間近くはコロナ禍での重苦しい状況の中で、今まで当たり前に行われてきた公民館活動が停滞してしまいました。それでもその間、ICTを活用したオンライン講座や会議、YouTubeを活用した講演会の視聴活動も実施してまいりました。

今年度になってコロナ感染症が5類に位置付けられたことで、ようやく対面での学びを通じた「集い、学ぶ、結ぶ」という公民館活動の原点に立ち帰ることができました。地区運動会やスポーツ大会、文化祭、音楽会などが盛大に開催され、報

道紙面にも明るい笑顔が載るようになりました。以前の公民館活動の復活が成されたものと思ひ、ひと安心した次第です。

コロナ禍での経験から、地域づくり・絆づくりのためにも、毎年実施している行事を大切に育てること、継続していくことの重要性を改めて感じました。今後は地区住民とより密接にコミュニケーションを図り、公民館から人が離れていかないよう魅力のある事業を企画し、感染対策をしながら活動を続けていきたいと考えます。

また、能登半島地震を教訓とした「防災」は、各地域共通の課題です。災害発生の際、公民館が避難所として何ができ、何をすべきか。災害時に備え開設・運営における態勢と役割について深く話し合う必要があると思ひます。さらに新たにSDGsの目標達成に向けた活動やジェンダー平等、コミュニティースクール事業、小・中学校での部活動の在り方から地域クラブ活動への移行・推進など、まだまだ学ばなければならぬ事例が多く、今後も取り組んでまいりたいと思ひます。

ちょっといい話

中信教育事務所発!!

今年度、何回か「多世代で楽しめるゲーム」を題材にした講座の依頼をいただきました。電源を使わない「アナログゲーム」とよばれるものです。簡単なルールでどの年代の方でも楽しめるものを紹介しました。

夏休みに行った講座では、約30人の小学生と一緒にゲームを楽しみました。人数が多かったため、市販のゲームではなく、道具を使わないものや身近なものを使ってできるゲームをやってみました。一番盛り上がったのは「紙コップタワー」。紙

コップとトランプを交互に積み上げるゲームです。高くなるにつれて皆が息を飲み、仲間の手元に集中していきます。高く積みあがったときの大きな拍手や、高く積み上がったタワーが崩れてしまったときの「あー！」という何とも言えない声部屋に響きました。

他の公民館で年配の方とやるときも、放課後子ども教室や社会福祉協議会の皆さんとやるときも、まったく同じように声が上がりました。大人も子どもも同じ立場で「楽しい」を共有できるのがアナログゲームの良さのひとつです。

「ゲームの教育的な効果は何ですか?」と聞かれることがありますが、期待できる効果はたくさんありますが、それよりも、そ

公民館と私



筑北村公民館主事 洞 圭司

きています。

本村の公民館はひとつですが、旧村単位の分館活動があるため、公民館主事3人で分担して行っています。この地域ごとの活動と村全体での活動を両立しながら、公民館事業を計画し展開していくことが大切な任務だと感じています。

また、本村には、サッカー場、野球場と体育館が各3施設、テニスコート、マレットゴルフ場、グラウンドゴルフ場などスポーツ施設が多数あるのが特徴です。加えて、2つのキャンプ場を管轄



ここにまたま居合わせた人たちが楽しい思い出を共有できることが一番大切なことです。効果は楽しんだ結果ついてくるものだと思います。

「明日もあなたとプレイしたい」と言われるようなプレイをしましょう。これはあるドイツのボードゲーム作家の言葉です。「明日もあなたと楽しみたい」と言われるような公民館活動が来年度も、中信地区のあちこちから繰り広げられることを楽しみにしています。

しているため、これらの施設を活かした公民館活動を行っていくことも重要だと感じています。

言うまでもなく、社会教育法に規定されている公民館の目的が達成できるよう事業に取り組んでいます。さまざまな年齢層のニーズに合った講座等を企画していくには、ひと筋縄ではないことも多々あります。しかしながら、少しでも喜ばれるよう研究し考えることが醍醐味であり、やりがいとなります。

これからもそれぞれのニーズを的確に捉え、村民のひとりでも多くの方が、生きがいや幸福感が得られるような公民館事業を日々模索していきたいと思ひます。

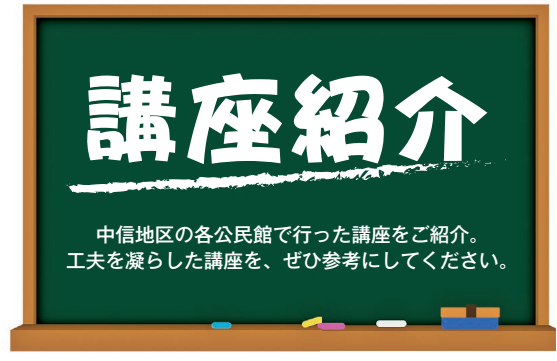
今年度、公民館主事会の中で他課との連携について考えるプロジェクト「KLMチーム」が結成されました。これは令和4年度から有志でK（公民館）・L（図書館）・M（博物館）の連携事業を行っており、その発展形として結成されたチームです。

松本ならではの学びをコンセプトに、市内の博物館や地域資源を活かすことで、「現地で体験する学び」を提供することができるとは思いませんか？と考え企画を検討してきました。

今回は、メンバーの担当地域に考古博物館や縄文時代の古墳があったため、縄文時代の学習

勾玉と本でキミも縄文人

松本市庄内地区公民館 主事 小林 大



縄文時代に思いをはせる参加者たち



みんな夢中になって勾玉づくり！

をテーマとして企画づくりを行いました。内容は、①大人と子ども両方楽しめる「勾玉づくり」②博物館の館長による館内見学と、図書館資料を使った調べ学習

とし、2グループに分けて行いました。

参加者からは、「他の制作イベントにも参加してみたい」という声がかかれたほか、「縄文時代の『皆で協力して暮らす』は今の時代でも大切なこと」という気付きを得ていただくことができました。地域の資源を活かすことで、地域住民とのつながりをより深めることができるかと改めて感じ、こうした経験の積み重ねが、郷土への愛着の醸成や担い手不足の解消にもつながっていくのではないかと期待しています。

今回は新たな取り組みということで、まずやってみることを重視しました。この経験をもとに手法をブラッシュアップして、より良い社会教育の実践を目指していきたいと思っています。

吉田地区は、塩尻市北部の地域に位置し、西側には奈良井川、東側には田川など一級河川が南北に流れています。河川等の大規模な氾濫の想定、さらに近隣には糸魚川-静岡構造線があり、震度6強の強い地震が想定されています。こうした背景から、吉田地区では防災に力を入れ、災害発生を想定したときの課題に関する対応策等の検討や推進を行っており、令和4年10月には吉田地区センター（吉田公民館）の隣に「よしだ防災公園」がオープンしました。

吉田公民館としては、令和5年度、この「よしだ防災公園」

親子でお泊りキャンプ

塩尻市吉田公民館 主事 太田 聡志

講座概要

名称：勾玉と本でキミも縄文人!?

日程：令和5年12月16日

時間：9時～12時

場所：松本市考古博物館

主催：松本市教育委員会（公民館主事会プロジェクト）



ロケットストーブで火起こし



皆でテント張り

を活用し、防災意識の向上を目的とした講座「親子でお泊りキャンプ」を3回開催しました。

募集定員は10組で、1・2回目はそれぞれ4組の申込みでしたが、3回目は10組の申込みがありました。1回目は雨天により屋内（吉田地区センター）での開催でしたが、2・3回目は夕立に見舞われたものの、屋外（よしだ防災公園）で開催することができました。

各回の共通した内容は、テントを張って一泊する、防災トイレの体験、災害用非常食を食べる、防災用品の見学、防災のお話を聞くなどで、貴重な体験をしていただきました。回ごとに、屋内では子ども同士で卓球や枕投げ等の交流、屋外ではロケットストーブを使った火起こし

講座概要

名称：親子でお泊りキャンプ

日程：①令和5年6月30日・7月1日
②7月21・22日
③9月22・23日

場所：よしだ防災公園

主催：塩尻市吉田公民館

し、花火、スイカ割りなど盛りだくさんの内容でした。

ある回では、火起こし体験でマッチを使い着火する際、マッチ自体を知らない子どもが多く、マッチに火を付ける方法が分からずに大人と一緒に点火するという、印象的な出来事がありました。

災害への備えとして、火の付け方、災害用非常食の作り方と味、テントの張り方や宿泊体験など、知識だけではなく体験することの大切さを学んでいただいた講座でした。そしてなにより、参加者同士の交流の場としてのつながりづくりになったと感じました。吉田地区と共に吉田公民館としても、防災意識の向上、そして人同士のつながりを深めることは大切だと思えます。そのため、今後も継続してこの講座を開催していきたいと思えます。

各種報告

中信地区公運協のほか、各地域の公民館で行った活動や開催した研修会について報告します。

研修報告

自治公民館役員とともに学ぶ

安曇野市三郷公民館 館長 藤松 伸二郎

私は、公民館は職員自身の研修の場でもあると考えています。こうした考えに立って、本館で企画した自治公民館役員対象の研修から、学び直した事柄を述べたいと思います。

令和5年4月15日(土)に、生涯学習推進センターの協力をいただいで、公民館支援専門員の

中田安子さんの講話に学ぶ研修会を行いました。参加者は三郷地域にある14の自治公民館の館長・主事としました。それは、自治公民館が抱える課題(役員のなり手不足・事業のマンネリ化等)の解決につなげたいという願いからです。

講師の中田さんから、次の公民館の7つの役割を事例とともにご教示いただきました。

- (1) グループや団体の活動の場
- (2) 文化や伝承を創造する場
- (3) 健康づくりの場
- (4) 気軽なたまり場
- (5) 地域福祉活動の拠点
- (6) 学習や話し合いの場
- (7) 防災の拠点

これらすべてが、公民館活動の使命である「地域づくり」に直結していること、また、重い地域課題である「少子高齢化」を乗り越えるために欠かせない視点であることも、改めて実感する機会となりました。これらを念頭において役員さんと思慮疎通を図ったり、情報提供・連携事業の開催等をしたりすることで、自治公民館支援ができる見通しも持つことができました。

講話の後、グループワークを行い、各公民館の課題や特色ある事業の共有を図りました。グループワークでの少人数による討議は、当事者意識を高める有効な手段となりました。

参加者から「講話や話し合いは大変参考になりました。中でも、『子どもを中心におく』ということが大切であることを知りました」等の感想が寄せられました。

公民館職員として、多くの学び直しのある研修となりました。



地域の課題を話し合う参加者たち

研修概要



名称：地域づくり推進研修「公民館・社会教育講座」
 日程：令和5年4月15日
 時間：9時～11時30分
 場所：安曇野市三郷公民館
 共催：長野県生涯学習推進センター・安曇野市三郷公民館

事業報告

大町地区市民運動会

大町公民館 主事 曾根原 優斗

令和5年4月に大町公民館に配属となり、その月の23日に大町地区市民運動会が4年ぶりに

開催されました。この運動会は昭和22年に始まり、今年で77回目の開催となる伝統行事です。新型コロナウイルスの影響でしばらく開催できない状況が続きましたが、ようやく復活となりました。地域や世代の異なる多くの市民の皆さんが一堂に会し、競技を通じて交流を深めました。

競技種目は、小学生から40代までを対象とした「GOGOレース」や、マレットゴルフで円の中心を狙う「的中マレットゴルフ」など、11種目で得点を競いました。新種目として行った、参加希望者全員を対象とした「〇×クイズ」や「パン食い競争」も盛り上がりました。

77回を迎えた運動会ですが、少子高齢化や地域コミュニティの衰退などの影響もあり、前回に比べ、出場分館や出場者が減ってしまいました。しかし、マイナスにばかり捉えるのではなく、コロナ禍を乗り越え、4年ぶりでもこんなに盛り上がった運動会ができたんだと考え、地域住民が交流できる運動会をなくすことなく、今後も継続して開催していきたいと思っています。

来年度については、分館単位での参加が望ましいですが、オンライン参加としてより多くの方に参加していただくため、年齢制限を大幅に緩和したり、興味を持っていただけるようなチラシ作りや、各年齢層に向けた有効なアプローチ方法を考えることに力を入れていきたいと思っています。

市民運動会は、私も15年ほど前には一市民として参加してい

ました。まさか、事務局として運営側に立つとは思っていませんでしたが、当時の活気を懐かしみながら、担当として少しずつ試行錯誤していきたいと思っています。皆さまお住まいの地区運動会での成功談などありましたら、ぜひ情報共有をお願いいたします。

各種目の中でも最も白熱した綱引き



子どもに人気のパン食い競争。手を使わずにとれるかな？

事業概要



名称：地域づくり推進研修「公民館・社会教育講座」
 日程：令和5年4月23日
 時間：9～12時
 場所：大町西小学校グラウンド
 主催：大町公民館・大町地区分館長会・大町地区体育部長会



皆で種まき

地域の課題解決のため長年にわたり「そばづくり」に取り組んでいる大桑村の中組について紹介します。

中組は、53世帯、人口136人の地区で、大桑村公民館の中分館も組織しています。大桑村の高齢化率は43%ですが、中組は39%となっており、65歳以下の住民が少し多い地区です。

中組で「そばづくり」の取り組みが始まったのは約20年前のこと。当時抱えていた地域課題は、子どもの居場所づくりと遊休農地の解消でした。平成14(2002)年に公立小・中学校の完全週休2日制がスタートし、土曜日を家で過ごさなければならなくなった子どもたちの居場所を、地域で協力して少しでも確保しようと、地域の子どもを交え有志が集まり検討を行いました。その際、地域のもうひとつの課題であった遊休農地を利用して何かできないかと始

グループ紹介

中組のそば作り

大桑村公民館 主事 田口 美穂

グループ概要



名称：大桑村中組
 場所：大桑村中地区
 人数：53世帯、人口136人
 代表：古谷 正
 連絡：0264-55-1020
 (大桑村公民館)

めたのが、「そばづくり」の取り組みでした。

畑の草刈り、畑づくり、種まき、収穫、乾燥、脱穀、選別作業を皆で行いました。人力での作業はけっこう大変だったそうです。また、長い活動の中では、雨などの天候により収穫できなかった年もあったり、始めた当初は60人以上が集まっていたのが、少子高齢化により参加者が減っていったりといったこともありましたが、それでも、今でも40人余りが集まり取り組みを続けています。

コロナ禍以前は、収穫したそばで、そば打ち講習会と試食会を行い地域住民との交流も行っていました。5類感染症への移行を受け、今後は復活させたいと計画しています。「そばづくり」を始めて20年余りが経過し、一部の作業は機械で行うようになりましたが、これからも活動を続けていきたいと意気込んでいます。

令和5年度 中信地区公民館運営協議会 事業報告

期日	事業名	開催場所	内容・備考
4月26日(水)	第1回 評議員会	松本合同庁舎 502会議室	役員選出等 R4事業・会計・監査報告 R5事業計画・予算
6月16日(金)	第2回 評議員会	塩尻市総合文化センター 302多目的室	館長・主事等視察研修 公運協だより 郡市の情報交換
9月28日(木)・29日(金)	第45回 全国公民館研究集会 第63回 関東甲信越静公民館研究大会 長野大会 第71回 長野県公民館大会	長野市芸術館ほか	アトラクション：善光寺木遣り、中公亭サステーションショー 記念講演：小平奈緒氏「人とつながる」 情報交換会(長野ホテル犀北館)、分科会
9月30日(土)	中信地区公運協だより第106号発行		A4版、フルカラー、4ページ構成
10月31日(火)	中信地区公運協館長主事等視察研修	木曾おもちゃ美術館 御嶽山ビジターセンター	地域の特色を活かした 学びの施設の視察
11月26日(土)	学者連携・協働フォーラム	長野県総合教育センター	「多世代が関わる地域と学校づくり」 ～「やってみよう！」から始まる協働活動～
2月2日(金)	第3回 評議員会	松本市中央公民館 「Mウイング」中会議室3-1	R5事業・会計中間報告、 R6事業計画、R6公民館大会、 公運協だより、郡市当番表の確認、 次年度役員選出、情報交換会
3月15日(金)	中信地区公運協だより第107号発行		A4版、フルカラー、4ページ構成

「まさに災い転じて福となす」です。せっかくのカラーですので、写真を多く使い、「〇〇概要」も設けて見やすい紙面作成を心がけました。来年度からは、また別の担当者が本紙の編集委員を引き継ぐこととなりますが、引き続き、ご愛読いただければ幸いです。

事務局だより

おかげさまで「中信地区公運協だより107号」を発行することができました。寄稿いただいた皆さまには感謝申し上げます。

さて、前号からカラー印刷になったのをお気づきでしょうか？実は、資材の高騰にともない本紙の印刷代も上がってしまったため、印刷業者の見直しを行ったところ、結果的に安くなり、さらにカラーにすることができました。



中信地区公運協館長主事等視察研修会の様子(10月31日)

関東甲信越静公民館研究大会長野大会での大会アピール(9月28日)

